

平成7年8月 第38号

知床の森から



北見営林支局 099-41 北海道斜里郡斜里町本町11番地
知床森林センター 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160

“登山の醍醐味たっぷり！” ～知床高山帯ビッグパノラマに歓声～

第27回の「森林レクリエーション・in知床」『知床硫黄山新噴火口登山』は、8月29日（火）におこなわれました。参加者は各地より集まった23名で、男子5名女子18名の一行となりました。知床森林センターで勢揃いした一行はバスに乗り、道中センター職員の見守りながら知床半島・知床の森林・オホーツク海などの紹介を受けながら登山道入口に向いました。知床は早朝まで悪天候下にあったのですが、徐じよに晴れはじめ好天の予感がします。

登山開始は11時10分で、色彩豊かな服装の一行は急坂登りに挑みます。次は林間の緩やかな登りでコエゾセミの騒鳴の中を進みます。ここが辛い歩きですが、今日はわずかな冷気が感じられます。小休止を取りながら、汗をかきかきここを通過します。

林を抜け稜線に出るとぱっと視界が広がります。素晴らしい眺望です。知床の山脈からオホーツク海の断崖まで下る濃緑の森の絨毯、それがパノラマとなって展開しています。澄み切った青い空をアマツバメガ矢のように宙を切っています。白い航跡を曳いた漁船が濃紺の海をすべっていきます。

ここからは緩やかな登りです。途中斜面崩壊地を注意しながら通過し、岩塊体積地の四つん這いで登攀し、レンガ色の粘土地帯や灰白色の火山灰地を通過します。最後に火山礫の体積する急なガレ場を越えるとそこが目的地新噴火口です。12時20分でした。噴火口からは硫黄臭の噴煙が白く立ち昇り活火山であることを証明しています。

ここで昼食。熱泉で茹でた卵を食べ、周囲を散策したり寛いだりし、最後に全員で記念写真を撮ったあと下山しました。帰りは風景を楽しみインストラクターの話を聞きながらゆっくり下りました。今日の登山に参加した皆さんは大喜びで、主催したセンターもおおいに満足できました。



今回のXメモ

- 1 募集人員23名 参加人員23名。男5名女18名
- 2 年齢構成20才～70才。
- 3 参加者地域
北見市10名、網走市8名、斜野町・白滝村・湧里町・斜里町・札幌市より各1名づつ。

協賛：知床森林センター、斜里町役所、斜里町民会、斜里町商工会

Oh!感動 妖しくも華麗



コウライテンナンショウ 別名エソテンナンショウという多年草が、ここ知床の森林にも生育している。5・6月が花季で、花は棍棒状に集合して葉鞘に囲われ、葉鞘の先端が伸びて天蓋状（仏焰）になっている。太い茎は1m近く伸び、茎は蛇の抜け殻のような紋様で一見異様。8・9月には雄花が朱色に結実し苞は枯れて松明様になる。ヘビノタイマツともいわれるゆえん。楚々・特異・妖美と変化していく植物で、遭遇したらときっとさせられる存在感がある。（サトイモ科）

エソヒグマ出没頻繁！



今夏知床半島では、多くの観光客がヒグマを目撃しました。これを受けて町役場と環境庁ウトロ管理官事務所はただちに対応し、知床硫黄山登山口・羅臼岳登山口と登山コース内・知床五湖などに注意喚起の立看板を設置しました。調査によれば徘徊しているのは3オグマらしく、それぞれの場所での単独行動の模様です。知床半島はヒグマの国、野生動物の聖域です。人間の嫌悪さがヒグマとの紳士的な共存を可能にし得る区域です。慎むべきはかれらに対するいわれなき干渉でしょう。ヒグマに遭った観光客のみなさんは、適切な対応と得難い体験で、きっと知床の想い出を生彩あるものにしたことでしょう。

知床どんぐり銀行開設

斜里町では昨年12月、知床国立公園指定30周年を記念して、町の木に「ミズナラ」を指定しました。これを受けて『「知床どんぐり銀行」の開設とミズナラの森づくり事業』を進めることになりました。これは学校教育の一環として町内小中学校生を対象に心豊かな子供達の成長を願い、好奇心と森づくりによる自然の魅力をマッチさせる目的で、この事業に森林センターも協力していくことになりました。

知床どんぐり銀行



斜里町では町の木「ミズナラ」を町のシンボルとしました。この木の葉「どんぐり」で「ミズナラの森」を作りましょう。このことにより豊かな自然が育ち、動物も増えて、また、木や木を育て、私たちが暮らすのに必要な酸素や水をあたえてくれます。このように大切な自然を守るために「どんぐり」銀行のようになくさん貯め、ミズナラの森を作りましょう。

協賛：知床森林センター、斜里町役所、斜里町民会、斜里町商工会

お目当てはカムイワッカ！

今年も知床に多くの観光客、そして若者たちが訪れました。そして若者たちはかならずカムイワッカ〔神（魂）の水…アイヌの呼称〕を目指します。

カムイワッカは国有林で、湧里営林署管内341林班内を流れ下り、オホーツク海には滝から落下しています。この一帯は知床国立公園で、かつ生態系保護地域で保存利用地区（バッファゾーン）が保存地区（コアエリア）を囲んでいるところ。この川は上流で温泉が湧き、硫黄を含む温水が平滑な川床を流れています。当然遡上する魚はおらず、代って人間がコアエリアにある湯室へ入浴のため遡上していきます。かれらはマナーが良く水筒姿です。人工物のまったく無いむき出しの自然に囲まれ、ゆったりと湯に浸ればここは桃源郷…天国でキャビアを食べる気分でしょう。近未来のカントリーママたちが上げる歓声が、知床硫黄山の裾野にこだまします。旅の思い出を一つ加えて物語りは続き、やがて時を経て、語り聞いた彼らの子や孫が、鮭が母なる川を返れぬように再び帰郷して来るのです。自然はおのれの営みを続け、神の水は湧いて流れ、ものがたりはつづいていきます。

